

本日は、お忙しいなか、また、遠方より 妻若代のお別れの会へご臨席いただきありがとうございます。

このお別れの会を開催するにあたり、喪主より一言ご挨拶を申し上げます。

まず、本日の「お別れの会」を開催するにいたった経緯をお話し致します。

妻若代は、昨年9月1日に町医者で脾臓にポリープありと診断され、翌日9月2日に容態が急変し救急搬送され、CT検査の結果末期ガンと診断されました。

病名は、^{かんもん ぶ たんかんさいぼう}肝門部胆管細胞ガンです。

お酒も多く飲まない人が、なぜ肝臓ガンなのかはわかりませんが、早くて2週間、長くても3ヶ月で年末までの命であると告げられました。

それから入退院を繰り返し、自宅からの外来治療による化学療法を続けました。その中で、本人希望で、救命措置は行わないで欲しい、お通夜、告別式などの葬儀は行わないで欲しい、その代わり「お別れの会」を行なって欲しいと話すようになりました。

お寺も呼ばず、^{かいみょう}戒名も不要、^{ぶつだん}仏壇も不要、お墓には入れないでほしい、^{じゅもくそう}樹木葬にしてほしいとの要望が、この会を開催する事の始まりでした。

病気の容態としては、通院生活で体調変動が大きい中、家族との話で元気な時に^{いえい}遺影を撮ったらどうか、との意見に若代は理解し昨年10月に夫婦で^{いえい}遺影とりました。それがこの遺影です。11月には容態の良し悪しがあるなか、長男の結納式当日は体調が良くなり、江口さんご夫婦との結納式の会食と歓談ができたことを大変喜んでおりました。また、12月24日には、長男が入籍し晴れて夫婦となった事で大変安心しておりました。それは、結婚式が2019年6月15日に決まっていたが、本人はそこまで生きている事ではないと感じていたからでしょう。

先生が余命宣告された年末が過ぎ、お正月を家族で迎える事ができ、さらに調子の良い時は実家へ行っておじいちゃん、おばあちゃんや、お姉さん家族ともお話もでき、残された時間を親族で過ごす事ができました。

しかし当初は、食事トイレやお風呂も自分でできていましたが、次第に体力が落ち3月中旬に化学療法ができなくなり、自宅での^{かんわ}緩和ケアへととなりました。

^{かんわ}緩和ケアでは、訪問医師から「病人とは見えないね」と言われるほど元気な姿でありましたが、4月に入るとさらに体力が落ち、4月24日 61歳の誕生日には階段の上り下りも困難なほどとなりました。

誕生日には、若代の姉夫婦が誕生祝いで来てくれた時は、自分から階段を降りて挨拶をし元気な姿を見せていました。ケーキを食べ、お菓子を食べ、お姉さんとお話しをして大変楽しい時間を過ごしました。しかし、元気を振り絞ったのか、元気な姿はこれが最後でした。次第に投薬スイッチを押す回数も増えました。

4月28日の訪問医療では、苦しさを和らげる為に投薬量を増やした為、意識が薄れ呼吸をするのも困難な状態になりました。食べることも、飲むことも困難になりました。

僕と次女彰香で交互に介護をし、若代に声をかけ”吸って、吐いて”と大きな声をかけると、それに合わせ呼吸をしていました。

4月30日の平成から令和に変わる夜も3人で過ごしました。

ところが、5月1日午後に訪問介護師の方に来ていただき、血圧測定で上限値が67と異常に低い事に気付きました。血圧がひくく、呼吸も少ない為、ゆっくりとケアを行い一休みしている時、若代が呼吸をするのを忘れていた様な状態になりました。

僕と彰香で、昨晚の様に若代に声をかけて”吸って、吐いて”と大きな声をかけると、それに合わせ呼吸をしようとしませんが、呼吸ができていない事がわかりました。

3回程繰り返しましたが、若代の目から涙が出て僕がティッシュで拭いた時が天国へ旅立った瞬間でした。

すぐにパルスオキシメーターを若代に指にはめましたが、反応なく最後をみとりました。

61歳と7日間の短い命でした。

その後訪問医師が死亡を確認した後、訪問看護師と裕理と彰香の3人で若代の体を綺麗にし、好きな洋服を着せ、お化粧をしてあげました。

その際、体を動かすたびに”うふふ”と笑う様な声がしました、訪問看護師さんが言うには、体を動かすと肺に入っている空気が口から出る時に声となって聞こえるらしいです、まるでまだ生きていて娘達に声をかけているような感覚でした。

まだまだ、みなさまへお伝えしたい事は多くありますが、声がつまりお話しできません。

ただ言える事は、若代は最後まで精一杯頑張って生きていました。

途中、いつ死ぬのかな、痛いのかな、との問いかけがありましたが、「痛くないよ、寝ている間に安らかになれるよ、僕よりも少し早くいだけだよ」、と手を握ってあげるのが精一杯でした、皆さまも限られた人生を精一杯生き抜いていただきたいと思います。

本日の会は、短い時間ではございますがスライドで思い出を振り返りながら、皆様からのお話しをお聞かせいただきたいと思います。

若代が希望した「お別れの会」で、久しいみなさんにお会いでき、若代もいつもの笑顔でとても喜んでいることと思います。

本日は宜しくお願いします。